



物価、8カ月連続マイナス 景気回復鈍く、インフレ加速の欧米と差

物価上昇圧力が高まる先進国の中で日本の根強いデフレ色が目立っている。総務省が23日発表した3月の消費者物価上昇率は前年同月比で8カ月連続のマイナス。インフレ率は米国で2%を超え、欧州各国もプラス転換している。ワクチン普及が遅れる日本の景気回復の鈍さを映す格差だ。

日本の3月の消費者物価指数（CPI、2015年=100）は、値動きの激しい生鮮食品を除く総合で101.8と前年同月に比べ0.1%下がった。都市ガスが8.5%、ガス代が5.2%、電気代が7.1%それぞれ低下した。20年春から落ち込んだ石油価格の持ち直しで下げ幅は縮んでいる。全体ではなおマイナス圏を抜けられない。

世界はワクチンの普及で景気回復が進むとの観測などから、物価上昇が加速する。新型コロナウイルスの感染が拡大した1年前に需要が急減した反動もある。

生鮮食品を含む総合指数の上昇率をみると、米国は3月に2.6%と2年7カ月ぶりの水準に達した。バイデン政権の巨額の財政出動が経済を押し上げる期待が広がっている。欧州でもドイツが1.7%、フランスが1.1%など上昇傾向が鮮明になってきた。

日本の物価は低空飛行が続くとの見方が多い。ニッセイ基礎研究所の斎藤太郎経済調査部長は「日本はもともとの水準が低く、原油価格の上昇が一段落すると上昇幅は落ち込む」と指摘。SMBC日興証券の宮前耕也シニアエコノミストは「携帯通信料引き下げの値下げ圧力が強い」とみる。

日本経済研究センターが8日公表したエコノミスト36人の経済見通し「ESPフォーキャスト」によると、日本の消費者物価指数の4～6月期の予測平均は前年同期比0.02%低下する。



ウメモト インフォメーション



2021年4月26日

担当 坂田

味の素、化粧品原料で石油を代替 アミノ酸系新素材

味の素はファンデーションやパウダーなどの化粧品の原料となるアミノ酸系の新素材を開発した。一般的な素材の石油系マイクロプラスチックビーズの代替品として使える。アミノ酸系の代替品の開発は世界初という。近年、環境意識の高まりから石油系素材の使用を控える動きが広がっており、アミノ酸系素材への代替需要を創出する。

石油系マイクロプラスチックビーズとは5ミリメートル以下のビーズ状のプラスチックで、化粧品や洗顔料などに使われている。肌ざわりの良さや滑りの良さ、撥水（はっすい）性の良さを出すための素材で、石油系以外での代替品の開発は難しいとされていた。

味の素は長年、植物由来のアミノ酸系の洗浄剤や保湿剤を研究してきた知見を生かして代替品の開発に成功した。このアミノ酸系素材は石油系素材と同等の感触と機能を持ち、自然由来の原料のみを使用しているため、分解性も高く環境への負荷低減も期待できる。

はファンデーションやパウダーなどの化粧品の原料となるアミノ酸系の新素材を開発した。一般的な素材の石油系マイクロプラスチックビーズの代替品として使える。アミノ酸系の代替品の開発は世界初という。近年、環境意識の高まりから石油系素材の使用を控える動きが広がっており、アミノ酸系素材への代替需要を創出する。

石油系マイクロプラスチックビーズとは5ミリメートル以下のビーズ状のプラスチックで、化粧品や洗顔料などに使われている。肌ざわりの良さや滑りの良さ、撥水（はっすい）性の良さを出すための素材で、石油系以外での代替品の開発は難しいとされていた。

味の素は長年、植物由来のアミノ酸系の洗浄剤や保湿剤を研究してきた知見を生かして代替品の開発に成功した。このアミノ酸系素材は石油系素材と同等の感触と機能を持ち、自然由来の原料のみを使用しているため、分解性も高く環境への負荷低減も期待できる。

先端技術で世界の変革けん引

サカタインクス

サカタインクスは今年度から、2030年を最終年度とする長期ビジョンを始動させた。デジタル化など印刷インキが当面する市場環境の変化や社会課題への対応を骨格とし、ESG・サステナビリティへの取り組み強化を戦略の中核に据える。既存事業の強化とともに重要テーマとなるのは新規事業の創出で、スタートアップとの協業などを積極活用。20年代中盤以降の成長につなげていく。

中期経営計画2023（CCC1）をその第一ステップとして、今後3カ年で基盤構築を進める。パッケージ用・缶用インキを中心に旺盛な設備投資を続け、期間中には150億円を投じ、国内の生産効率化やアジア・米州などの各地で増強を予定。新興国市場では、今年度第2四半期を目標にバンクラテシユの稼働開始に向けて準備を進めている。また戦略的投資枠として150億円を設定し、未進出国への進出やM&Aを積極化する構えだ。製品戦略の中核となるのは、おもに脱炭素化への貢

30年目標の新中計始動 環境製品・新事業創出に力

献。すでにブランドとして確立された「ボタニカルインキ」のほかカスバリア性コーティングなどの提案を加速し、おもにフィルム使用量を削減する「リデュース」や紙化による「リプレイス」への貢献を目指す。一方、海洋プラスチック問題を受けて世界的に重視され始めたマテリアルサイクルへの対応も重視。米国市場で実装すみの脱墨インキ「Genesis GS」シリーズの世界展開を検討し、現行の飲料ラベル向けから食品包装向けに展開するための技術構築を進める。

新事業創出における重点分野としては、①環境・バイオケミカル、②エナジケミカル、③エレクトロニクスケミカル、④オプトケミカルの4領域を設定。研究開発の迅速化につながる組織体制が整備されつつあり、今後3カ年で他社との協業などを通じた基盤固めに注力する。これらにより、30年度には達成すべき戦略目標として連結売上高3000億円規模にまで拡大させる方針だ。

豊国製油

豊国製油はグリーンケミカル企業として、引き続きヒマシ油の可能性を模索していく。同社はヒマシ油やその誘導体であるセバシン酸、セバシン酸エステル、ポリエステルポリオールなどヒマシ油由来のフラインケミカル製品では国内屈指のサプライヤーで、今年70周年を迎える老舗。今後大阪の本社工場と三重工場（津市）の2工場体制で、「地球にやさしいバイオオイル」であるヒマシ油の安定供給とさらなる技術開発を進めていく。

現在、売上高150億円を目標とする中期計画「チャレンジ150」を推進中の同社。併せて事業基盤強化や人材育成、さらなる製品の安定供給・安定品質を目指している。原動力となるのがBCP（事業継続計画）対応として、'97年から稼働している三重工場。20年3月に完成した新設備では最新鋭の原料供給システムや省力化設備などを導入したことで、生産性向上はもちろん高品質・高純度・高性能な製品を生

ヒマシ油の可能性を探求 環境対応型エステル製品も

産、加えて新たに環境対応型エステル製品の取り扱いも開始した。昨秋にはコロナ禍の影響を脱し、現在は高稼働が続いている。

三重工場は「可能性を秘めた設備（今川博道社長）」という。新設備完成により生産能力は1.5倍を見込むが、付帯する設備の見直しでさらなる増産も可能（今川社長）。早晚組上に載せる本社工場のリニューアルにも反映させ、さらなる生産性向上につなげる。

懸念は海外。現在、世界市場のヒマシ油はほとんどがインド産で、原料の安定確保は長年のテーマ。同社ではサプライヤーとの絆を強めつつ引き続き新たな供給先を模索する。一方で海外展開にも今後力を入れる。電子関連や医薬品、化学品、自動車部品など幅広い市場を持つとともに、グリーンケミカルな素材であるヒマシ油は、SDGs（持続可能な開発目標）の観点からも今後ニーズが高まる模様。ユーザーとも連携を図り積極的にチャレンジしていく方針。

プリンター 印刷速度3倍 ミマキエンジニアリング、大型看板向け新製品

産業用インクジェットプリンターの産業用インクジェットプリンターのミマキエンジニアリングは、大型看板向けプリンターの新製品を今夏発売する。従来製品と比べて搭載するヘッド数を増やし、上位機種の場合は印刷速度を約3倍に高めた。対応するインクの色も拡充するなど機能を向上させて新規顧客の開拓につなげる。

新製品は「JFX600-2513」と「JFX550-2513」。印刷速度は従来製品に比べて、JFX600が約3倍、JFX550は約1.5倍速くなる。対応するインク数も4色から6色に拡大。新たにライトシアンとライトマゼンダが加わったことで、肌色や多彩なグラデーションの表現が可能になった。看板市場のほか床や壁紙といった建材市場での利用も想定している。

は、大型看板向けプリンターの新製品を今夏発売する。従来製品と比べて搭載するヘッド数を増やし、上位機種の場合は印刷速度を約3倍に高めた。対応するインクの色も拡充するなど機能を向上させて新規顧客の開拓につなげる。

新製品は「JFX600-2513」と「JFX550-2513」。印刷速度は従来製品に比べて、JFX600が約3倍、JFX550は約1.5倍速くなる。対応するインク数も4色から6色に拡大。新たにライトシアンとライトマゼンダが加わったことで、肌色や多彩なグラデーションの表現が可能になった。看板市場のほか床や壁紙といった建材市場での利用も想定している。



ウメモト インフォメーション



2021年4月26日

担当 坂田

製品値上げ 情報

製品値上げ

DI-C グラフフィックス
 クスがインキなど
 DI-C グラフフィックスは、5月10日出荷分からインキなどを値上げする。1kg当たりの改定額は白インキが40円、色インキが60円、メッシュムおよびOPニス、接着剤が50円、硬化剤が50、150円、クリヤーが30円、ホワイトコーチングが40円、金属インキが50円。主原料の樹脂および顔料は、世界市場の急回復による需給タイト化などで高騰。環境対応や物流、ユーティリティ、金庫容器など副資材のコストも上昇している。増加費用を自努力だけで吸収するのは困難な状況にあり、安定供給とサービスの維持・向上には価格改定が避けられないと判断した。

**ADEKAがプラ
 スチック用添加剤**
 ADEKAは、5月21

日出荷分から酸化防止剤や光安定剤などのプラスチック用添加剤を値上げする。改定額は1kg当たり50〜200円。主原料の価格が供給ひっ迫などの影響を受けて上昇しているほか、運賃なども高騰している。自努力で吸収できる限界を越えており、安定供給を継続していくうえで価格を改定せざるを得ないと判断した。

ソノウオンが 樹脂添加剤

ソノウオンは25日、樹脂添加剤の全製品を値上げすると発表した。即日適用するが、個別契約がある場合は契約に基づいて実施する。値上げ幅は製品によって異なるとしている。原材料などの大幅に継続的な値上がりに対応したもので、製品供給とサービスを顧客に安定して提供するために必要と判断したという。

接着剤・コー ティング材全般

ロード・ジャパン

ロード・ジャパン・インクは6月1日出荷分から接着剤・コーティング材全般を値上げする。改定額は現行価格比平均10%。コロナ禍からの需要回復や米国の暴落による停電などを背景に、同社製品に使用する特殊原材料の安定調達を図るため、原材料メーカーから大幅な価格上昇を受けざるを得ない状況にある。また、世界的に海上、航空輸送ともにコストが昨年を上昇している。こうした状況下で製品の安定供給を維持し、顧客の要求に対応する製品の研究開発およびサービス維持向上のため価格改定を決めた。